

事例 2 5 単元（真実を語る「未来をひらく微生物」）

## 『説明の技』に注目して読みながら書く説明文学習』

国語科 第1学年

珠洲市立三崎中学校

### 1 事例の概要

入学当初の生徒達は、授業の集中が続かない状況であった。生徒の実態に合った授業ができていないからだとして反省し、生徒の実態に合わせながら課題の精選とスモールステップ化を図った。本校の学校研究にかかわっては、国語科では漠然としがちな学習の対象を明確にすることで、効果的な「思考、判断、表現」が可能となると捉えた。本単元では、この説明文で身に付けたい「説明の技」を「習得」したい基礎として提示し、本単元ですっかりと身に付けましようと呼びかけた。文章の内容を読み取りながら、「説明の技」の効果を理解したり、自分達でもそれらを使って書いたりした。「説明の技」を使って何度か書くことで、確実に身に付けることをねらった取組である。

A-1 学校研究

A-2 構想図

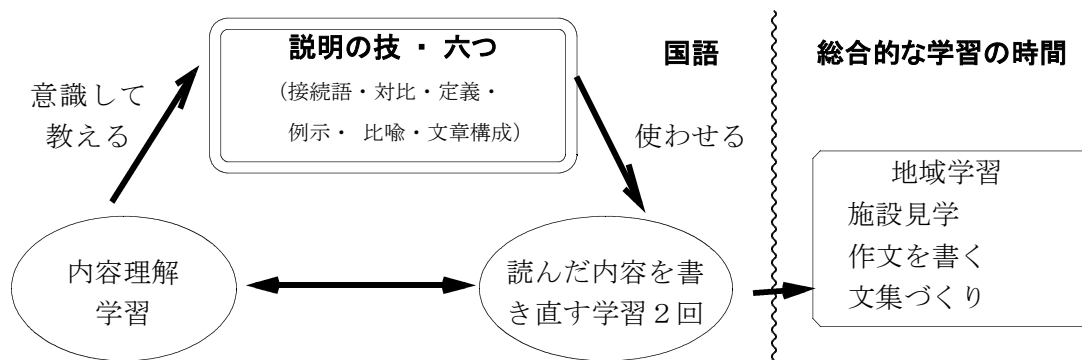
### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

内容を読みとるだけでなく、「説明文の表現の特徴」を理解し、「説明文の学び方」を身に付けること、具体的には「接続語」「対比」「定義」「例示」「比喻」「文章構成」という六つを習得すべき「説明の技」として設定した。それらを使って、読みとった内容を、条件に従って書き直すことができるようになるというのが目標である。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ①指導法の工夫



ア 説明文学習の「習得」すべき「説明の技」を設定した。

イ 読みながら書く学習を繰り返した。

ウ 徐々に高いレベルの課題を与えた。

エ 地域学習に繋がった。

B-1 単元計画

B-2 指導上の工夫

##### ②授業構成の工夫

ア 「学習課題」を明記し、「自己評価」するというスタイルの徹底

イ ペア学習・グループ学習の重視

ウ ノート指導の重視

### 3 指導の実際

| 学習の流れ  | 学習の内容&学習活動                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点                           | 評価◎支援○ |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------|
| 導入 8分  | <p>&lt;ペアで音読をする&gt;</p> <p>&lt;あなたはどちらの「歯ブラシ」「水切りネット」を<br/>買いますか?&gt;</p>                                                                                                            | <p>・大きな声でゆっくりと</p> <p>・実物を見せる</p> |        |
| 展開 35分 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生分解性プラスチックとは何だろう？<br/>普通のプラスチックと比べて<u>どんな違いや特徴が</u><br/>あるのだろう？</p> </div> <p>&lt;教科書を読んで、グループでまとめよう&gt;</p> |                                   |        |

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 生徒作品

C-4 文集抜粋

C-5 生徒ノート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

生徒の作品、学習後の自己評価と感想から成果を分析した。二つの書き直し作文に取り組み、最後には地域の環境施設を紹介する文集を全員で作ることができた。生徒の多くは学習が進むにしたがって自己評価が高くなっている。実際の生徒の作文でも「対比」や「例示」、「定義」を使って書くことができていた。また、文集では「文章の構成」を意識してどの生徒も書き上げることができた。ただし、「説明の技」については自己評価は低い項目も見られる。しかし、意識して学習することができたことはわかる。生徒の感想でも「作文が上手に書けた」「書く力がついた」とする内容が多い。「説明の技」に対する不安も見えるが、「○は分かるけど、○は分からない」と限定して述べていることから、学習対象を意識化して、自分の力を客観的に捉えていることが分かる。生徒の不安は、今後、機会を捉えて指導を行っていくこととする。

「どんな学習をすれば、どんな力が付くのか」を意識させ始めてから、国語の学習に対する積極性が生まれた。また、学習の積み上げを確かめながら進めて行ったところ、「やればできる」という実感も生まれてきたようだ。学習の定着に時間がかかる生徒も、「何をどんな順番でするか」を理解すれば、素早く取り組めることが分かった。また、短時間で学習が進む生徒も「目的」と「評価規準」を知れば、工夫を加えて粘り強く学習できることもわかった。

D-1 自己評価

D-2 学習後の感想

#### (2) 課題

学習意欲が増したとは言え、自分から課題を探したり、それ以上に学ぼうとする生徒は数少ない。また、国語科と他教科を関連づけたり、生活上のことと結びつけて取り組もうとする姿勢もまだまだ不十分である。一方、授業者側の課題として、筆者の論理や発想の豊かさを積極的に扱う説明文学習を考えていかねばならないだろう。今後は、個人の力に合った課題を自ら設定し、自ら進めていける学習の実現を目指していきたい。

### 5 その他

E-1 参考文献